



めでたき準備整ふ

けふから朝夜二回に亘つて

宮内省から御模様を發表

皇后陛下の御慶事はいよくこゝ一句と押追つた、廿日赤坂離宮では自動車のきしりが皇后感のきざりになつてはと早朝から離宮正門の出入は皇族方のみと制限を加へ御車寄を閉鎖し一般出入は東車寄と定めそこには御機嫌奉伺帳を備へつけた、皇宮警察部でも坂口警視を司令として正門をはじめ各門には皇宮警手を三名づゝに増員した、又側近に奉仕する人々も準備をさくゝ怠りなく何時御吉兆を拜しても差支なきやうにと晝間は磐瀬御用掛、夜間は塚原侍醫が交代で詰切り助産婦その他係員も全部當直を開始し手配は全く終つた、なほ宮内省では廿日から各新聞社に對し午前十時と午後九時半と二回に亘り御慶事前の御模様を發表することとなりその第一回として本多事務官から陛下にはいと御機嫌うるはしく極めて御順調の旨を發表した。

兩乳人

近く御誕生遊ばされる皇子さまの乳人については東京、栃木、茨城、埼玉、山梨、群馬、神奈川の一府六縣から推薦された候補者十四名に對し侍醫寮の手で細密なる體格検査に引續き身元再調査中のところ愈々榮譽ある乳人は十九日左記二名に決定した旨宮内省から發表と共にそれ／＼通牒を發せられた、兩乳人は來る廿五日赤坂離宮に出頭、簡単な健康診断を行ひ即日奉仕の豫定である。

東京府豊多摩郡中野町中野一七四七會社員 木内勝次妻 喜代子

(明治卅八年三月廿五日生)

山梨縣東八代郡石和町一四六農家 八田政恕妻 義子

(明治卅八年十一月五日生)

愈々けふから兩乳人奉仕

最後の健康診断を受けてそれ／＼官舎へ

皇子御生誕もいよいよ近日に迫つたのでかねて光榮ある御乳人として決定してゐた木内喜代子(二三)八田義子(二三)の兩名は屬官付添ひの上廿五日午前十時半自動車で赤坂離宮に初伺候し、篋侍醫の最後の健康診断を受け直に奉仕することになり河井皇后宮大夫から乳人の辭令を受け八田乳人は離宮内の官舎

に木内乳人は麴町區紀尾井町官舎にそれ〴〵差控へることになつた、右につき本多侍従は謹んで語る『御慶事も迫つたのでけさ兩乳人は參殿いよ〴〵奉仕する事となつた次第です、また廿五日は大正天皇の御命日に當らせられ天皇陛下には午前十時宮中に出御あらせられ直に權殿に御禮拜の上皇太后陛下に御面會御物語りあつて午前十一時卅五分御退出還幸あらせられたが皇后陛下には油小路女官を、皇太后陛下には竹屋典侍を多摩陵に御代拜として遣はされました』

獻上品や賀表賀賤は

受納しな

皇子御生誕に際しての獻上品や賀表賀賤の類は諒闇中のことであるからすべて受け納れられないことになつてゐる、御生誕後御機嫌奉伺を差許されてゐる者は平常通りの有資格者即ち従六位勳六等以上のものゝみて赤坂離宮も宮城もそれ等の人々に對する別段の設備もなく平素の通り受付に記名帳を置くだけのことであると。

(八月廿五日東京日日新聞)